

行動しないと前に進めないし、 問題も解決しない。まずは行動!!



当たり前のことを当たり前前に

2013年2月に農水省の第21回優良外食産業表彰を受けたヨシケイ栃木フーズ(株)は、昭和53年12月の設立以来、安心・安全な家庭用総菜宅配業として、地域住民、特に女性の社会参画に積極的に貢献。その一方で、排出される野菜くずの食品リサイクルにも取り組み、段ボールなどの資源ごみで購入した車イスを宇都宮市に寄付もしている。その功績が認められて、地域社会貢献・環境配慮部門で局長賞に輝いた。

「社会の役にたっている、貢献しているという自負心を、社員に持たせてやりたい。そして、安心してしっかりと働ける環境を作りたい」と熱く語るのは、小田祥郎社長。その分、社員教育にも力が入る。現在取り組んでいるのは3L運動。小田氏自身が提唱した「Love Love Large」を合言葉に、お客様や仲間を愛し、そして、愛され、さらにそれを拡大させて信頼を育もうというもの。「そのためには、おはよう、ありがとう、などの挨拶が基本。当たり前のことを当たり前前に行うことが大切」と。

現在、女性従業員が92%。女性管理職の割合も

92%。設立当時、女性の自動車免許保有率が3人に1人という中で、デリバリー担当として女性を雇用したことは画期的でもある。「社会の基本は、明るい家庭。家庭を支える主婦を早く帰したくて、効率の良い仕事を心がけている。そうさだ。」

全ての基本は家庭

同社の前身は、父親の経営していた、全国給食連合会の一員として工場に弁当を供給する産業給食事業。戦後の高度経済成長の中、そのサービスはおいに活用された。小田氏も、入社当時は、弁当づくりと配達が主な業務だったとか。「包丁もうまく使えるよ」と笑う。やがて景気が上昇すると、各工場内で食事を賄うようになり、給食の斜陽化が進む。弁当から業務用食材の供給にシフトする中、冷蔵・冷凍技術も追い風になり、家庭用「下ズ」も生まれ、全給連のメンバーの中からも、業態を変える動きが出てきた。それがヨシケイ。

父親に「このまま給食か、ヨシケイをやるか、どうする?」と、フランチャイズに加わるかどうか問われ、「やる」と決断したのは小田氏。「さあ、やれ」と任せられ、社長として新たな一歩を踏み出した。それから36年。本社を含め4拠点に事業拡大し、約60人のスタッフが、毎日家庭に安心・安全な食材を届け、健康サポートを続けている。常に時代の流れに対応し、2年ほど前からは、老人施設やグループホーム向けの業務用商品もスタートさせ、高齢化社会を支えている。

「今、食の多様化が進んでいる。家族の形態も変化し、食卓の風景も変わってきた。価値観も多様化している」と分析する一方で「日本人の良さは、人を信じること。家族を大切にすること。人の命を大切にすること。その全ての基本は家庭にある。ところが、物だけを子どもに与え、心の成長を育んでいない。判断の物差しがブレている。子どもは虐待もそう。大人でない大人。子どもが子ども

を生んでいる状況から、さまざまな問題が生まれている」と憂える。

大事なものはバランス

時代の流れの中で、何度も経営の苦しさを味わう。そのリカバリーは? と問うと、「打開の仕方なんてない。そう簡単にはいかない。ただ、人間というのは、行動しないと前に進めないし、問題も解決しない。まずは行動!!」と。社長室に掲げてある友人の書家からのメッセージ。七轉八起を仰ぎ、「さきさん経験した」と笑い飛ばす。そして、「経営で大事なものは、バランス」と言い切る。

「子どもの頃からごく普通に生活し、中学校で剣道を少ししたしただけ。学生時代も、バイトに明け暮れただけで、コレといって熱中することもなかった」と振り返る。しかし、「自分で働いて金を稼ぐことは大切」と気づき、一部は授業料に当て、時には実家にも役立てる。大学3年からは、片道2時間半をかけて実家から通学したガッツは並大抵のことではないはず。改めて、「当たり前前」のことを当たり前前にする」という信念のルーツをみたような気がした。そんな人生を振り返り、「一番楽しかったことは「同じ価値観、考え、悩みを持つ仲間」とコミュニケーションしながら、仕事をしている時が一番充実しているかな」と。これからも、時代は変化する。食、という人間にとって一番大切な根幹を担う使命は、まだまだ続きそうさだ。

【取材日：平成27年4月8日】

Profile

昭和22年10月17日生まれ67歳。宇都宮市生まれ、自然に恵まれた田園風景の中でのびのびと育つ。作新学院高等学校、千葉県立千葉商科大学卒。卒業後、リコー教育機器(株)に入社、機器メーカーの営業として社会人の一歩を踏み出すが、わずか数カ月で交通事故のため退社。家業に加わり、昭和53年にフランチャイズとして、ヨシケイ栃木フーズ(株)を設立。娘3人の父。趣味はゴルフ。

おだ よしろう
小田 祥郎

